

■ドイツ：累積導入 5,200 万 kW で太陽光の固定価格買い取り廃止を決定

太陽光発電の買い取り制度の改正を巡って対立していた連邦議会（下院）と連邦参議院（上院）は 2012 年 6 月 27 日に開催された両院協議会において、太陽光発電の買い取り価格の 20～30%の引き下げ、ならびに太陽光発電の累計設備容量が 5,200 万 kW に達した後は新規の太陽光発電設備には固定価格買い取り制度を適用しないことなどを盛り込んだ修正案に合意。28 日と 29 日に連邦議会と連邦参議院でそれぞれ上記修正案が可決され、法案が成立した。連邦政府は、2012 年 3 月末に連邦議会では法案通過に成功。しかし、野党が過半数を占める連邦参議院は法案による価格引き下げが雇用を脅かす可能性あるとして法案を否決、両院協議会での修正を要求していた。今回の法案に盛り込まれた 5,200 万 kW という値はもともと 2020 年までの導入目標であるが、早ければ 2016 年にも累積導入量がこの上限値に達するとみられる（2012 年 4 月末現在、2,700 万 kW）。